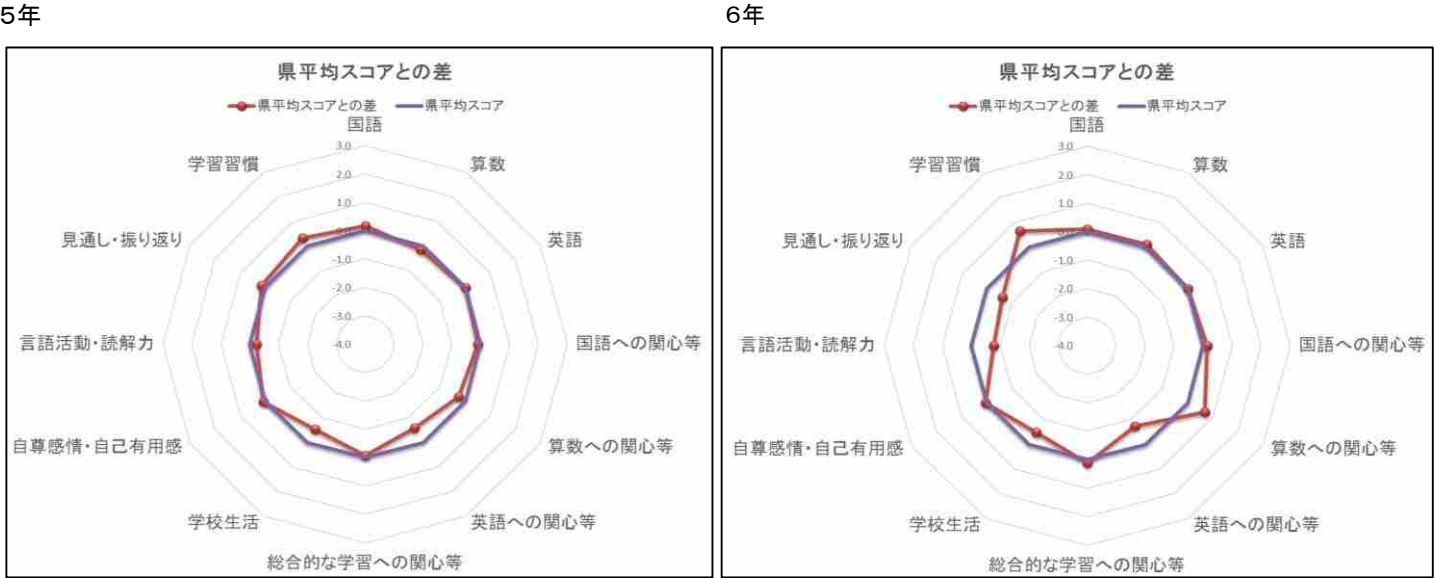


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立川津小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字の読み書きやローマ字の理解が、よく定着している。 ○簡条書きのメモや短い新聞記事などをもとに判断し、条件に合うように考えをまとめて書くことがよくできている。 ●修飾語、被修飾語の関係の理解が不十分である。 ●文学作品の言葉や表現の意味を考えることにやや課題が見られる。	・図書館司書の協力で何年も続けている「新聞プリント」の取組を継続し、自分の考えをまとめたり条件に合った文章を書いたりする経験を積み重ねる。 ・週1回の短時間学習「スキルアップ」を活用し、修飾語、被修飾語、接続語などの復習をし、定着を図る。 ・文学作品の指導において、言葉や表現の意味を考える指導を充実させる。
	算数	○小数と小数のかけ算や異分母分数の足し算の技能がよく定着している。 ○図形の特徴や直方体の体積の求め方をよく理解している。 ●一部の問題を除き、全体的に正答率が低い。 ●終わりの方の問題になるにつれ無回答率が高くなることから、理解や思考に時間がかかる児童が多いと考えられる。	・5年生までの基本的な内容について学年末までに、復習の機会を持ち、定着を図る。 ・授業の中で問題を解くとき、自分の考えやその理由を説明したり書いたりする経験を積み重ね、思考力・表現力を育てる。 ・タイマー等を使って、時間内に問題を処理する経験を積む。
6年	国語	○漢字の読み書きは、おおむね定着している。 ○メモやグラフ、表などをもとに判断し、条件に合うように考えをまとめて書くことがよくできている。 ●比較的に長い文章の意味を正しく理解したり、2つの文章を関連づけて考えたりすることに課題がある。	・「新聞プリント」を継続したり、社会科等と関連づけて資料を読み取る練習をしたりし、複数の資料や文章を関連づけて読み取る力をつける。 ・学年の「おすすめの本」の読書を勧め、学年相応のある程度の長さの本を読み切る力をつける。
	算数	○小数の計算技能や計算の順序の理解が定着している。 ○三角形や円の特徴、面積の求め方、線対称や縮図の利用など、図形に関する問題の正答率が高い。 ●異分母分数の引き算や小数・整数・分数の混合計算の技能が不十分である。 ●表やグラフで示された単位量あたりや割合の問題の正答率が低い。	・異分母分数や小数・整数・分数の混合計算の習熟を図る。 ・単位量あたりや割合の問題について、確認し復習する。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	66	51
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数  
5年生 87 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。  
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	68	61
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数  
6年生 94 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業で「話し合う活動」や「調べ学習」を行っている割合が県平均に比べて高く、主体的・対話的な学習が定着しつつある。 ○授業の「めあて」を示すことがほぼ定着し、「振り返り」も県平均に比べよくされている。 ●「算数が好き」「よく分かる」等、算数の指導に関し県平均を下回る項目が多く、算数の指導に課題があると思われる。	・今後も「めあて」を示し、それに対応した「振り返り」をして、学んだことが定着するようにする。 ・少人数指導を活用して「できた、分かった、楽しい」と思える算数の授業作りを工夫する。
	家庭学習に関わる事項	○学校で出された宿題をきちんと行い、家庭学習に1時間以上取り組む児童が多い。 ○1日10分以上読書に取り組んでいる児童の割合も高い。 ●スマートフォン等の使用時間が1時間以上の児童の割合が県平均に比べ高く、メディア接触の仕方に課題がある。	・メディアコントロールウィークを学年、学級でも強化して取り組めるよう共通の目当てを設ける。 ・メディア依存の害について、ミニ保健指導等で、児童に話をしていく。
6年	授業改善に関わる事項	○学校図書館の本を利用した授業(調べ学習など)が好きな児童が、県平均に比べて多い。 ○「算数の学習が好き」「よく分かる」など、算数の指導に関わる項目の肯定的評価の割合がどれも高い。 ●「グループでの調べ学習」「考えを発表する機会」「話し合う活動」などの項目が県平均を下回りっており、対話的な学習に課題がある。	・総合や社会科では、調べたことをまとめて発表するグループ学習を意識的に取り入れる。 ・ペアやグループの話し合いマニュアルを活用する。 ・教科を問わず、全員に発表させる機会を持つ。
	家庭学習に関わる事項	○家庭で授業の復習をしたり、宿題にきちんと取り組んだりする児童が多い。 ○1日10分以上読書に取り組んでいる児童の割合も高い。 ●1時間以上家庭学習をする児童の割合が、県平均に比べ低く、家庭学習の量に課題がある。	・授業の前後に、クラスで、図書館に行く時間を設け借りの機会を持ち、いつでも手元に読みかけの本があるようにする。 ・自学ノートの良い取り組みを学年やクラスで紹介し、取り組みやすくする。 ・ある程度の量の宿題は、学年でそろえて毎日出す。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

